

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500011		
法人名	社会福祉法人 ふるさと自然村		
事業所名	グループホームふたな		
所在地	高知県高岡郡中土佐町久礼6002番地2		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 12 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりのペースを大切にし、その人らしく過ごせるよう支援します。日々の生活の中から様々な場面での気づきを大切にし入居者の出来ることに着目し、職員間で情報共有・協力・連携しながら入居者が楽しみや生きがいをもって生活できるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3992500011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 11 月 24 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍が落ち着いてきて、利用者の方の楽しみを突らせ、以前以上にできるように、職員が気配りをして催しを増やしている。園長は、利用者だけでなく職員にも喜んでもらおうと何でも話ができる関係を築いている。そのために女性感性を活かし、「いこい処」という畑を充実させ、芋ほり、大根、春菊の野菜、いたどりなどの山菜が、食卓をにぎやかせるように、また、旬のメニューの料理のお手伝いの一つにもなっている。また、空いているところには、色とりどりの花が咲き乱れて、目を麗し、園内の癒しどころともなっている。集団で行動することが難しい利用者をその人その人に合わせ、こぼしても大丈夫な汁が少ないインスタントの焼きそばを持参して、その花壇に囲まれて昔話に花を咲かせて食したことが、記憶に新しい。利用者の言葉とか思いを大事にすることをこだわりとして、コロナ禍になってから管理者になった管理者は、背中を見せながら、どんなこともバンバンといえる関係づくりをし、利用者9人のパターンに嵌ってどう変えていくかをテーマとして職員間の関係づくりに努めてきた成果がみえてきた。勤続の長い職員が多く、様々な提案を投げかけてくれ、コロナで外出ができないカバーにも余念がない。当たり前前が当たり前前ができる体制が、組織的にも職員的にも徐々に突っている施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や休憩所に掲示し共有している。利用者に対する言葉遣いや接し方で気付いたことは職員間で声掛け合い互いに意識付け、理念に基づいた個別のケアを行っている。	理念の“花水木”の花言葉を大切にして、ケアに臨むように、管理者は常日頃から職員に意識づけようとしている。理念は、玄関と休憩所に掲示してある。利用者の年齢者が離れていることもあり、集団行動が困難なため、個別の対応を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の養護老人ホーム双名園やグループホームいこいと合同で地域住民と一緒に防災訓練や田役を行っている。また、地域のボランティアの方に協力して頂きさつま芋の苗植えや芋掘りを保育園児と一緒にしている。	地域の方から、旬の野菜や果物を頂くことがある。防災訓練を地域と合同でしたり、職員が溝掃除に年1回参加している。いこい処へ、地域の方が訪れているときに利用者と挨拶を交わすこともある。施設内の他施設にいる猫と触れ合うために行くことも、癒しの一つとなっている。	地域とのかかわりをさらに深めることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも面会や見学・入居相談に来ていただき、説明やアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実施報告・取り組み・利用者状況等の報告し、意見や助言をもらいサービスの向上に活かしている。	対面で行っている。福祉課、福祉協議会会長、園長、同施設内のグループホームの管理者が参加している。ヒヤリハットの報告や、行事報告などについて話し合った。	運営推進会議を生かして、更に意見を取り入れる工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回中土佐町職員が出席してくれている。入居者や入居者家族の困り事との相談にも乗ってくれたり内容により包括等とも関わり協力を得ている。	管理者が窓口となっている。入居者のことで困ったことがあったりした際には、相談をしている。直接会ったり電話にて連絡をすることで、密に話し合える関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、高齢者虐待の勉強会を行ったり内部研修で身体拘束防止の研修を行っている。	身体拘束適正化委員会は、園長や看護師の方の指導で、事例を挙げ話し合ったり、資料を使って研修を行っている。管理者がネットによる外部の身体拘束に関する研修に参加し、職員には時間を見計らって資料を閲覧してもらい、説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会開催時や虐待の研修を行い、どのような行動や言動が虐待に繋がっていくかを理解することで職員もお互いに言葉や介助等を気を付け防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を3名の方が利用している。入居時に本人、家族に説明を行っている。研修等に参加し職員間で情報を共有して職員が理解できるよう説明等もする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、締結、解約の説明をしている。入居後も不安や疑問点があれば都度説明している。改定時には、説明文を作成し、家族に説明し署名をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会等相談機関の説明し、相談機関を見やすい位置に掲示してその都度説明を行っている。家族から意見や要望が聴かれたら職員間で情報を共有している。	面会の際や、電話で家族の意見を聞くようにしている。介護計画の作成や見直し時にも、家族の意見を聞いている。誕生日には、好きなメニューを聞いて提供したり、畑仕事や、ふきを取りに行きたいという方へは、近くに行き山菜取りをして、食卓に並べることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人では施設長・管理者等が集まり意見交換する会が毎月あり出席している。職員の意見や提案を個別に聴き、各ユニットリーダー等と検討し、ケアや運営に反映させている。	管理者と職員は、日常のケアの中で話し合える関係ができている。勤続年数の長い職員から意見を頂くこともよくある。職員の意見から、いこい処へ行き、外出に代わる食事会をしたこともある。各年間行事は、担当職委員が工夫して自由に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い、向上心を持って働けるように働きかけている。また、家庭の事情や希望休等に応じてシフトを組み働きやすい環境を講じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での介護技術研修・内部研修は定期的に行っている。また、県社協や自治体が主催している外部研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の施設長、管理者等が集まる会を毎月行っている。また、毎月法人内のGH管理者が集まる機会を作り勉強会等を行い情報の共有・サービスの向上への取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集(既往歴・現病歴・生活歴・趣味・嗜好等)した上で、入居者とコミュニケーションを図りながら話しに耳を傾け本人の希望に添える支援を行っている。また、記録や申し送り等で情報共有し状態や状況により都度話し合いよりよい支援ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や困っている事・要望等を聞き、説明を行い安心できるように努めている。入居後も本人の状態等も報告し信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時より、家族や利用者の意見や求めていることを聞き、それに寄り添ったサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを職員と共に行ったり、本人の役割として手伝ってもらい、時には利用者に教えてもらいながら生活を共にしている。また、職員、利用者、利用者同士のコミュニケーションも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人と話ができる環境を作り、一緒に過ごせる時間を作っている。定期的に通信で本人の様子や写真を載せ状態や状況の手紙を書き、本人と家族とに関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防対策の一環で、面会や外出を控えていましたが、現在は面会制限を行っておらず、可能な範囲での面会や外出・外泊ができるようにしている。また、両棟での交流の機会を作るようにしている。	面会は対面で、居室などで行っている。家族との買い物、外泊や外食も可能な限り対応している。他施設との交流もあり、昔なじみの知り合いと触れ合い、会話を楽しむこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけホールで過ごしてもらうようにしている。体操やレク時には、声掛けし全員に参加してもらうようにしている。また、孤立にならないよう、職員が間に入り利用者同士が関わりを持つことができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に相談に来て下さいね。と声をかけている。また、家族様に会った時には様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント・モニタリング時に満足度や今後どうしていきたいかや家族に意向を聴き、可能な範囲で本人本位にできるよう努めている。また、意思疎通の困難な方は表情や日常の活動・動作等から読み取ると共に家族からの収集を行い本人本位にできるよう努めている。	発語が困難な利用者には、今までの状況を振り返ったり、家族から聞いて思いを汲み取るようにしている。手伝いをしたいと希望する方には、食器洗いや洗濯をして頂いたり、居室の掃除機をかけることなどをして頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集を家族・ケアマネ・相談員・行政等から情報を得て理解に努めている。入居後も本人とのコミュニケーションを図る中で情報を聞き、生活歴等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴を把握し、現在の生活の中で出来ることに着目し活かしていけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報共有し担当者会で意見を検討している。本人の思いを第一に考え家族の意向を聴き、職員の意見も反映しながら現状に合った介護計画を作成している。	介護計画は入所時、2ヶ月、半年毎に見直している。モニタリングは3ヶ月に1回、アセスメントとプランの見直しは半年に1回行っている。看護師、家族、担当職員の意見を参考にしている。できることを形式的ではなく、利用者が過ごしやすくなるためのケアに繋がるようなプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりや気づき・生活状況を記録し職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに合わせて柔軟な対応ができるよう自治体等にも意見を聞いて運営に反映させている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児・小学生などとの交流を持ち、併設施設での行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診で見てもらっている。病状により本人、家族希望の病院を受診し、家族を通じて受診時の状態を聴き病院とも連絡をとっている。状態や病院により職員も付き添い対応している。	かかりつけ医に、ほとんどの方が転医している。24時間365日対応。同施設内に看護師が常駐しているので、緊急時のオンコール対応もあり、相談しやすい。歯科は必要に応じて、往診して頂ける。他科は、基本は家族に付き添って頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する事業所の看護師と連携を図り互いに相談しながら健康管理や病院受診の支援を行い健康管理に努めている。夜間看護師オンコールもあり、急変時の相談や対応ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、病院、家族との連絡を取り合い情報交換を行い互いに相談し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族に、重度化対応に関する指針・看取りに関する指針を説明し、グループホームで出来る事、出来ない事との説明を行い理解した上で対応し、協力病院との連携ができる体制を整えている。	看取りは実施しているが、重度化した場合は病院へ移ることが多い。入所時と終末期に差し掛かった時には再度、家族に説明をし同意を得ている。家族の意向を尊重し、なるべく施設で可能な限りケアに努めている。職員同士や管理者がフォローして配慮もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網は事務所に貼り、オンコール表で看護師・主治医との連絡をとる体制ができている。また、内部研修等へ参加し緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年5回定期的に訓練を行っている(火災訓練年2回・地震津波避難訓練年2回風水害避難訓練年1回)併設施設が災害時の避難場所になっている為、訓練は併設施設と合同で行っている。	利用者も一緒に訓練に参加している。緊急連絡網は、事務所に掲示しており、携帯のアプリを使って情報共有できるようにしている。同施設内の建物が避難場所になっている。備蓄は、施設内と避難施設に3日分保管している。火災訓練の際には消防署の参加もあり、水消火器の訓練もできた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心に配慮し個々に細かく声掛けケアすると共に本人が嫌な思いをしないような対応を行い、状況や状態により他の利用者に気付かれないような声掛けを行っている。	呼称の基本は苗字に「さん」付けで呼んでいるが、家族の了承の基、下の名前に「ちゃん」付けで呼ぶ方もいる。居室に入る際にはノックするか、言葉掛けをしている。排泄失敗時には、さりげなく言葉掛けをして誘導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をコミュニケーションを図りながら聞き出せるよう会話に努める。できるだけ本人が意思決定できるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや生活リズムを大切に、職員のペースでなく個々のペースに合わせて行動できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に好みの服を聞き季節に合った服を着ている。衣服がない時には家族に依頼し買って来てもらっている。また、行き付けの理美容室を利用したり2～3ヶ月に1回美容師に来訪してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、本人の好きな食事や行事食を提供し喜ばれている。また、野菜の皮むきやお米研ぎ配膳・食器洗い等、利用者の能力に応じた作業を実施している。	施設内の畑で採れる季節の野菜を使ったメニューが、食卓に並ぶ事がある。3食手作りで、行事食も工夫して提供している。誕生日には利用者の好きなメニューを聞き、ウナギや握りずしを出したら喜んで頂けた。食器洗いなど、できる作業はなるべく手伝って頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を記録し管理している。食事形態も状態に合わせて提供している。自己江の摂取量が少ない時には声掛けや介助をしたり、メイバランス等の栄養補助食品の提供をする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり、うがいや歯磨き等を行い、夕食後は義歯洗浄液に浸けることは職員が行っている。自己で出来る方は声掛けを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し誘導を行ったり、時間での声掛けや誘導・介助を行っている。排泄チェック表に記入し一日の排泄状況を確認している。	排泄チェックシートを活用した結果、排泄の失敗が減った。夜間のみポータブルトイレを使用する方は、数名いるが、昼間は定期的な言葉掛けでトイレでの排泄が出来ている。排泄の管理は、手書きとネットの併用で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を把握し、乳製品や繊維の多い食材を提供し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度時間は決まっていますが体調や希望に応じて入浴してもらっている。体調不良や拒否時には、日時を変更し対応したり、汚染時には、入浴日にかかわらず対応し清潔にを保ち気持ちよく過ごしてもらっている。	入浴は週2回の提供で、同性介助にも対応している。入浴を嫌がる方には無理強いをしないようにして、日時や職員を変更して対処している。季節湯として、ゆず湯や菖蒲湯を提供して、気分を味わって頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、日中はホールで過ごしてもらい、夜間ゆっくり休めるようにしている。状態に応じ、お昼寝や居室で休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診で内服薬の変更があった時など記録に残し情報の共有を図っている。個々の内服薬の薬表を業務日誌に挟み常に把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることを見極め、台所仕事、掃除、洗濯干し・畳み、お茶詰め等日常生活動作の中で役割を持ち生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防対策の一環から敷地外に出る外出は殆どできませんが、天気の良い日は両棟一緒に外で体操や歌を行ったり、気分転換を図り、職員と一緒に敷地内へ散歩に出かけるようにしている。	施設内の花畑と野菜畑の中にある、“いこい処”に、インスタント焼きそばを持って行き、食事を楽しんだ。感染防止をしながら桜見や馴染みの町内にドライブに出掛けた。近くの神社に初詣へ行き、健康を祈願した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者数名が家族了承の下、お金を少額持っている。職員同伴で自分の好きな物を買ったりしている。また、買い物をするのではないがお金がないと不安になる為、所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で電話を取り次いだり、家族や知人といつでも話ができるよう携帯電話を所有している。自己で手紙を出される方は、職員がポストに投函している。また、家族からの手紙が届いた際には本人に渡し、本人の希望にて読み聞かせることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	供用の場所は常に生活の場とし気持ちよく過ごせるようにしている。季節の花を飾ったり、壁飾りを定期的に交換し季節に応じたものを楽しめるようにしている。	日中は窓辺に置かれたソファの決まった席で、レクリエーション活動やリハビリ体操、珈琲タイムを楽しんでいる利用者の姿が見られた。施設内のいこい処がある畑に散歩に行ったり、旬の野菜を収穫したりして、自然を感じる生活となっている。折り紙制作が得意な職員が、季節に合わせて壁面に作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、畳の間は、それぞれ思い思いの好きな場所で寛ぎ過ごしてもらっている。入居者同士のコミュニケーションの場にもなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら使い慣れた家具・テレビ・椅子・小物等を持って来てもらったりしている。また、家族の写真や絵を飾ったり、アルバムや手紙をみて居室での時間を楽しんでいる。	備え付けはベッド、カーテン、照明、クローゼット。各ユニットに、トイレ、洗面所つきが3部屋、洗面所つきが3部屋の居室がある。冷蔵庫やテレビ、ラジオ、雑誌を持ち込み寛ぐ利用者もいる。家族の位牌に毎日手を合わせ、思いを馳せている方もいる。毎日清掃され、利用者が掃除機やモップ掛けを手伝うこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に名前を貼ってあり、トイレには分かりやすいよう「便所」と表示している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500011		
法人名	社会福祉法人 ふるさと自然村		
事業所名	グループホームふたな		
所在地	高知県高岡郡中土佐町久礼6002番地2		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 12 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりのペースを大切にし、その人らしく過ごせるよう支援します。日々の生活の中から様々な場面での気づきを大切にし入居者の出来ることに着目し、職員間で情報共有・協力・連携しながら入居者が楽しみや生きがいをもって生活できるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3992500011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 11 月 24 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍が落ち着いてきて、利用者の方の楽しみを突らせ、以前以上にできるように、職員が気配りをして催しを増やしている。園長は、利用者だけでなく職員にも喜んでもらおうと何でも話ができる関係を築いている。そのために女性感性を活かし、「いこい処」という畑を充実させ、芋ほり、大根、春菊の野菜、いたどりなどの山菜が、食卓をにぎやかせるように、また、旬のメニューの料理のお手伝いの一つにもなっている。また、空いているところには、色とりどりの花が咲き乱れて、目を麗し、園内の癒しどころともなっている。集団で行動することが難しい利用者をその人その人に合わせ、こぼしても大丈夫な汁が少ないインスタントの焼きそばを持参して、その花壇に囲まれて昔話に花を咲かせて食したことが、記憶に新しい。利用者の言葉とか思いを大事にすることをこだわりとして、コロナ禍になってから管理者になった管理者は、背中を見せながら、どんなこともバンバンといえる関係づくりをし、利用者9人のパターンに嵌ってどう変えていくかをテーマとして職員間の関係づくりに努めてきた成果がみえてきた。勤続の長い職員が多く、様々な提案を投げかけてくれ、コロナで外出ができないカバーにも余念がない。当たり前前が当たり前前ができる体制が、組織的にも職員的にも徐々に突っている施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や休憩所に掲示し共有している。利用者に対する言葉遣いや接し方で気付いたことは職員間で声掛け合い互いに意識付け、理念に基づいた個別のケアを行っている。	理念の“花水木”の花言葉を大切にして、ケアに臨むように、管理者は常日頃から職員に意識づけようとしている。理念は、玄関と休憩所に掲示してある。利用者の年齢者が離れていることもあり、集団行動が困難なため、個別の対応を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の養護老人ホーム双名園やグループホームいこいと合同で地域住民と一緒に防災訓練や田役を行っている。また、地域のボランティアの方に協力して頂きさつま芋の苗植えや芋掘りを保育園児と一緒にしている。	地域の方から、旬の野菜や果物を頂くことがある。防災訓練を地域と合同でしたり、職員が溝掃除に年1回参加している。いこい処へ、地域の方が訪れているときに利用者と挨拶を交わすこともある。施設内の他施設にいる猫と触れ合うために行くことも、癒しの一つとなっている。	地域とのかかわりをさらに深めることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも面会や見学・入居相談に来ていただき、説明やアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実施報告・取り組み・利用者状況等の報告し、意見や助言をもらいサービスの向上に活かしている。	対面で行っている。福祉課、福祉協議会会長、園長、同施設内のグループホームの管理者が参加している。ヒヤリハットの報告や、行事報告などについて話し合った。	運営推進会議を生かして、更に意見を取り入れる工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回中土佐町職員が出席してくれている。入居者や入居者家族の困り事との相談にも乗ってくれたり内容により包括等とも関わり協力を得ている。	管理者が窓口となっている。入居者のことで困ったことがあったりした際には、相談をしている。直接会ったり電話にて連絡をすることで、密に話し合える関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、高齢者虐待の勉強会を行ったり内部研修で身体拘束防止の研修を行っている。	身体拘束適正化委員会は、園長や看護師の方の指導で、事例を挙げ話し合ったり、資料を使って研修を行っている。管理者がネットによる外部の身体拘束に関する研修に参加し、職員には時間を見計らって資料を閲覧してもらい、説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会開催時や虐待の研修を行い、どのような行動や言動が虐待に繋がっていくかを理解することで職員もお互いに言葉や介助等を気を付け防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を3名の方が利用している。入居時に本人、家族に説明を行っている。研修等に参加し職員間で情報を共有して職員が理解できるよう説明等もする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、締結、解約の説明をしている。入居後も不安や疑問点があれば都度説明している。改定時には、説明文を作成し、家族に説明し署名をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会等相談機関の説明し、相談機関を見やすい位置に掲示してその都度説明を行っている。家族から意見や要望が聴かれたら職員間で情報を共有している。	面会の際や、電話で家族の意見を聞くようにしている。介護計画の作成や見直し時にも、家族の意見を聞いている。誕生日には、好きなメニューを聞いて提供したり、畑仕事や、ふきを取りに行きたいという方へは、近くに行って山菜取りをして、食卓に並べることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人では施設長・管理者等が集まり意見交換する会が毎月あり出席している。職員の意見や提案を個別に聴き、各ユニットリーダー等と検討し、ケアや運営に反映させている。	管理者と職員は、日常のケアの中で話し合える関係ができています。勤続年数の長い職員から意見を頂くこともよくある。職員の意見から、いこい処へ行き、外出に代わる食事会をしたこともある。各年間行事は、担当職委員が工夫して自由に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い、向上心を持って働けるように働きかけている。また、家庭の事情や希望休等に応じてシフトを組み働きやすい環境を講じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での介護技術研修・内部研修は定期的に開催している。また、県社協や自治体が主催している外部研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の施設長、管理者等が集まる会を毎月行っている。また、毎月法人内のGH管理者が集まる機会を作り勉強会等を行い情報の共有・サービスの向上への取り組みをしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集(既往歴・現病歴・生活歴・趣味・嗜好等)した上で、入居者とコミュニケーションを図りながら話しに耳を傾け本人の希望に添える支援を行っている。また、記録や申し送り等で情報共有し状態や状況により都度話し合いよりよい支援ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や困っている事・要望等を聞き、説明を行い安心できるように努めている。入居後も本人の状態等も報告し信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時より、家族や利用者の意見や求めていることを聞き、それに寄り添ったサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを職員と共に行ったり、本人の役割として手伝ってもらい、時には利用者に教えてもらいながら生活を共にしている。また、職員、利用者、利用者同士のコミュニケーションも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人と話ができる環境を作り、一緒に過ごせる時間を作っている。定期的に通信で本人の様子や写真を載せ状態や状況の手紙を書き、本人と家族とに関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防対策の一環で、面会や外出を控えていましたが、現在は面会制限を行っておらず、可能な範囲での面会や外出・外泊ができるようにしている。また、両棟での交流の機会を作るようにしている。	面会は対面で、居室などで行っている。家族との買い物、外泊や外食も可能な限り対応している。他施設との交流もあり、昔なじみの知り合いと触れ合い、会話を楽しむこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけホールで過ごしてもらうようにしている。体操やレク時には、声掛けし全員に参加してもらうようにしている。また、孤立にならないよう、職員が間に入り利用者同士が関わりを持つことができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に相談に来て下さいね。と声をかけている。また、家族様に会った時には様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント・モニタリング時に満足度や今後どうしていきたいかや家族に意向を聴き、可能な範囲で本人本位にできるよう努めている。また、意思疎通の困難な方は表情や日常の活動・動作等から読み取ると共に家族からの収集を行い本人本位にできるよう努めている。	発語が困難な利用者には、今までの状況を振り返ったり、家族から聞いて思いを汲み取るようにしている。手伝いをしたいと希望する方には、食器洗いや洗濯をして頂いたり、居室の掃除機をかけることなどをして頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集を家族・ケアマネ・相談員・行政等から情報を得て理解に努めている。入居後も本人とのコミュニケーションを図る中で情報を聞き、生活歴等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴を把握し、現在の生活の中で出来ることに着目し活かしていけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報共有し担当者会で意見を検討している。本人の思いを第一に考え家族の意向を聴き、職員の意見も反映しながら現状に合った介護計画を作成している。	介護計画は入所時、2ヶ月、半年毎に見直している。モニタリングは3ヶ月に1回、アセスメントとプランの見直しは半年に1回行っている。看護師、家族、担当職員の意見を参考にしている。できることを形式的ではなく、利用者が過ごしやすくなるためのケアに繋がるようなプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりや気づき・生活状況を記録し職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに合わせて柔軟な対応ができるよう自治体等にも意見を聞いて運営に反映させている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児・小学生などとの交流を持ち、併設施設での行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診で見てもらっている。病状により本人、家族希望の病院を受診し、家族を通じて受診時の状態を聴き病院とも連絡をとっている。状態や病院により職員も付き添い対応している。	かかりつけ医に、ほとんどの方が転医している。24時間365日対応。同施設内に看護師が常駐しているので、緊急時のオンコール対応もあり、相談しやすい。歯科は必要に応じて、往診して頂ける。他科は、基本は家族に付き添って頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する事業所の看護師と連携を図り互いに相談しながら健康管理や病院受診の支援を行い健康管理に努めている。夜間看護師オンコールもあり、急変時の相談や対応ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、病院、家族との連絡を取り合い情報交換を行い互いに相談し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族に、重度化対応に関する指針・看取りに関する指針を説明し、グループホームで出来る事、出来ない事との説明を行い理解した上で対応し、協力病院との連携ができる体制を整えている。	看取りは実施しているが、重度化した場合は病院へ移ることが多い。入所時と終末期に差し掛かった時には再度、家族に説明をし同意を得ている。家族の意向を尊重し、なるべく施設で可能な限りケアに努めている。職員同士や管理者がフォローして配慮もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網は事務所に貼り、オンコール表で看護師・主治医との連絡をとる体制ができている。また、内部研修等へ参加し緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年5回定期的に訓練を行っている(火災訓練年2回・地震津波避難訓練年2回風水害避難訓練年1回)併設施設が災害時の避難場所になっている為、訓練は併設施設と合同で行っている。	利用者も一緒に訓練に参加している。緊急連絡網は、事務所に掲示しており、携帯のアプリを使って情報共有できるようにしている。同施設内の建物が避難場所になっている。備蓄は、施設内と避難施設に3日分保管している。火災訓練の際には消防署の参加もあり、水消火器の訓練もできた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心に配慮し個々に細かく声掛けケアすると共に本人が嫌な思いをしないような対応を行い、状況や状態により他の利用者に気付かれないような声掛けを行っている。	呼称の基本は苗字に「さん」付けで呼んでいるが、家族の了承の基、下の名前に「ちゃん」付けで呼ぶ方もいる。居室に入る際にはノックするか、言葉掛けをしている。排泄失敗時には、さりげなく言葉掛けをして誘導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をコミュニケーションを図りながら聞き出せるよう会話に努める。できるだけ本人が意思決定できるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや生活リズムを大切に、職員のペースでなく個々のペースに合わせて行動できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に好みの服を聞き季節に合った服を着ている。衣服がない時には家族に依頼し買って来てもらっている。また、行き付けの理美容室を利用したり2～3ヶ月に1回美容師に来訪してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、本人の好きな食事や行事食を提供し喜ばれている。また、野菜の皮むきやお米研ぎ配膳・食器洗い等、利用者の能力に応じた作業を実施している。	施設内の畑で採れる季節の野菜を使ったメニューが、食卓に並ぶ事がある。3食手作りで、行事食も工夫して提供している。誕生日には利用者の好きなメニューを聞き、ウナギや握りずしを出したら喜んで頂けた。食器洗いなど、できる作業はなるべく手伝って頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を記録し管理している。食事形態も状態に合わせて提供している。自己江の摂取量が少ない時には声掛けや介助をしたり、メイバランス等の栄養補助食品の提供をする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり、うがいや歯磨き等を行い、夕食後は義歯洗浄液に浸けることは職員が行っている。自己で出来る方は声掛けを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し誘導を行ったり、時間での声掛けや誘導・介助を行っている。排泄チェック表に記入し一日の排泄状況を確認している。	排泄チェックシートを活用した結果、排泄の失敗が減った。夜間のみポータブルトイレを使用する方は、数名いるが、昼間は定期的な言葉掛けでトイレでの排泄が出来ている。排泄の管理は、手書きとネットの併用で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を把握し、乳製品や繊維の多い食材を提供し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度時間は決まっていますが体調や希望に応じて入浴してもらっている。体調不良や拒否時には、日時を変更し対応したり、汚染時には、入浴日にかかわらず対応し清潔にを保ち気持ちよく過ごしてもらっている。	入浴は週2回の提供で、同性介助にも対応している。入浴を嫌がる方には無理強いをしないようにして、日時や職員を変更して対処している。季節湯として、ゆず湯や菖蒲湯を提供して、気分を味わって頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、日中はホールで過ごしてもらい、夜間ゆっくり休めるようにしている。状態に応じ、お昼寝や居室で休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診で内服薬の変更があった時など記録に残し情報の共有を図っている。個々の内服薬の薬表を業務日誌に挟み常に把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることを見極め、台所仕事、掃除、洗濯干し・畳み、お茶詰め等日常生活動作の中で役割を持ち生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防対策の一環から敷地外に出る外出は殆どできませんが、天気の良い日は両棟一緒に外で体操や歌を行ったり、気分転換を図り、職員と一緒に敷地内へ散歩に出かけるようにしている。	施設内の花畑と野菜畑の中にある、“いこい処”に、インスタント焼きそばを持って行き、食事を楽しんだ。感染防止をしながら桜見や馴染みの町内にドライブに出掛けた。近くの神社に初詣へ行き、健康を祈願した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者数名が家族了承の下、お金を少額持っている。職員同伴で自分の好きな物を買ったりしている。また、買い物をするのではないがお金がないと不安になる為、所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で電話を取り次いだり、家族や知人といつでも話しができるように携帯電話を所有している。自己で手紙を出される方は、職員がポストに投函している。また、家族からの手紙が届いた際には本人に渡し、本人の希望にて読み聞かせることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	供用の場所は常に生活の場とし気持ちよく過ごせるようにしている。季節の花を飾ったり、壁飾りを定期的に交換し季節に応じたものを楽しめるようにしている。	日中は窓辺に置かれたソファの決まった席で、レクリエーション活動やリハビリ体操、珈琲タイムを楽しんでいる利用者の姿が見られた。施設内のいこい処がある畑に散歩に行ったり、旬の野菜を収穫したりして、自然を感じる生活となっている。折り紙制作が得意な職員が、季節に合わせて壁面に作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、畳の間は、それぞれ思い思いの好きな場所で寛ぎ過ごしてもらっている。入居者同士のコミュニケーションの場にもなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら使い慣れた家具・テレビ・椅子・小物等を持って来てもらったりしている。また、家族の写真や絵を飾ったり、アルバムや手紙をみて居室での時間を楽しんでいる。	備え付けはベッド、カーテン、照明、クローゼット。各ユニットに、トイレ、洗面所つきが3部屋、洗面所つきが3部屋の居室がある。冷蔵庫やテレビ、ラジオ、雑誌を持ち込み寛ぐ利用者もいる。家族の位牌に毎日手を合わせ、思いを馳せている方もいる。毎日清掃され、利用者が掃除機やモップ掛けを手伝うこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に名前を貼ってあり、トイレには分かりやすいよう「便所」と表示している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				